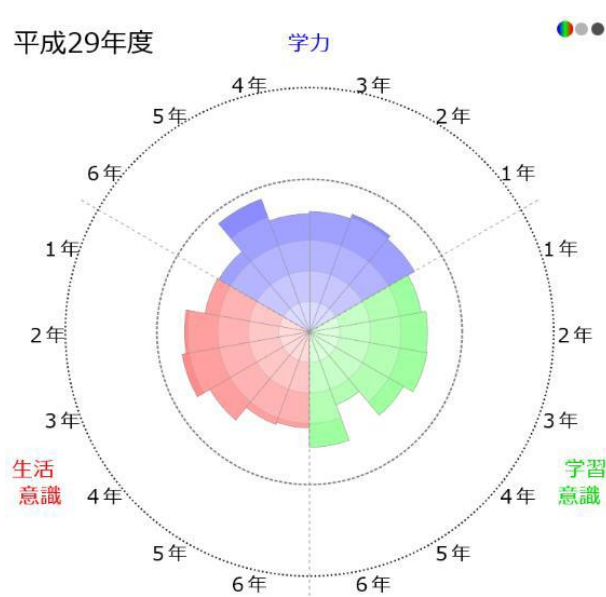
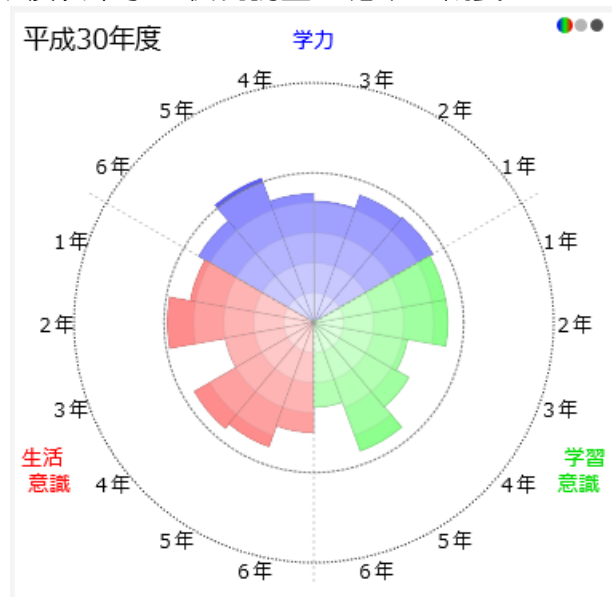


学力向上アクションプラン

◇横浜市学習状況調査の結果の概要



学力は横浜市の平均と同程度か、やや低い傾向にあります。学習意識、生活意識も市平均より低い状況にあります。その中で、4・5年生では学習意識が、高学年では生活意識がそれぞれ前年度に比べて向上しました。これらは、少人数指導など学習形態・指導方法の工夫による成果、また重点的に取り組んだ特別活動（話し合い活動）などの成果であると考えます。生活意識、学習意識の向上は学力の向上にもつながるものととらえ、今後もさらに工夫・改善を進めていきます。

【結果】

【国語】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
市正答率平均	62.4	70.7	57.4	57.0	62.9	59.9
本校正答率平均	57.9	67.9	51.6	63.4	61.6	55.8

【算数】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
市正答率平均	58.9	61.0	55.7	55.1	52.5	60.2
本校正答率平均	57.1	56.3	50.6	49.0	51.1	58.2

【社会】

学年	3年	4年	5年	6年
市正答率平均	73.4	69.9	72.4	70.5
本校正答率平均	69.6	64.3	73.0	68.0

【理科】

学年	3年	4年	5年	6年
市正答率平均	71.3	56.8	62.5	72.2
本校正答率平均	68.6	55.8	58.9	68.3

【結果を踏まえた今年度の取り組み】

〈1年〉

国語では、読み聞かせや図書時間を大切に、言葉の力を豊かにしていきます。算数では、具体物からの抽象化を丁寧に行っていきます。また、基礎学力を育むために、十分な演習ができるようぐんぐんタイムを設定し、反復学習を大切にしていきます。

〈2年〉

それぞれの教科における基礎・基本の内容を充実させていきます。具体物や具体操作を生かした楽しくわかる授業づくりに努めます。体験を通して、児童が実感を伴いながら学習できるようにしていきます。児童同士が学び合う学習形態を工夫します。児童のつまずきを把握し、適切な支援ができるようにします。

〈3年〉

一人ひとりが主体的に考え、学ぶ楽しさが味わえるような授業をしていきます。そして、考える手立てになるような具体物やプリントなどを活用し、一人ひとりの理解が深まるように努めます。それぞれの教科における基礎・基本の定着を図るために、個に応じた指導も行っていきます。

〈4年〉

国語の基礎・基本の充実を図るために、漢字のミニテストを利用して繰り返し練習することを奨励します。また、話す力を高めるために、音読や一人一人が発表する機会を増やします。抽象的な思考が増えてくるので、図や表、数直線などを利用して考えられるように指導していきます。個に応じて足りない点を補ったり、発展的な学習に取り組んだりできるようにします。

〈5年〉

思考力や表現力を大切にする授業をしていきます。自分の考えをもつ、友達の考えを聞く、友達の考えと比較する過程を大切にします。授業では、表現したことで、思考が深まり、思考が深まったことで表現がより明瞭になる経験を大切にしていきます。一人ひとりに合った学習形態を考えて個に合った学習を進めていきます。

〈6年〉

基礎・基本を大切にしながら、思考力・表現力を育てる授業をしていきます。授業での課題を明確にすることで、子どもたちの理解につながります。また、グループやペアで話す機会や一人ひとりの発言の場を増やし、話す・聞く力を育てます。個に応じた指導も取り入れながら、基礎・基本の定着や意欲の高まりを目指します。

【学習意識調査・生活意識調査より】

○「自分には良いところがあると思いますか」という質問では、「そう思う」と答える児童が増えました。特別活動の係活動や委員会活動など、行事に取り組む中で自己肯定感が高まってきたものと考えます。自分に自信をもって物事に取り組めるように継続していきたいと考えます。

○「人の気持ちを考えて行動するようにしていますか」という質問では、「している」「どちらかといえばしている」と答える児童が増えました。一昨年度より、話し合い活動に重点を置いて授業づくりに取り組んでいます。話し合い活動を通して、様々な考えをもつ人がいることを理解し、人の気持ちを考えるようになってきたと考えます。

○「あいさつを自分からしている」という質問では、あまり変化が見られませんでした。一昨年度より、児童会活動や学級活動であいさつに取り組んでいます。昨年度ほどの変化がありませんでした。今年度の児童会スローガンにも「あいさつ」が入っているので、増えていくように取り組んでいきたいと思えます。